

## 2024年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年5月15日

上場会社名 株式会社スマートバリュー 上場取引所 東  
コード番号 9417 URL <https://www.smartvalue.ad.jp/>  
代表者 (役職名) 代表執行役社長 (氏名) 渋谷 順  
問合せ先責任者 (役職名) 社長室 (氏名) 大門 朋恵 (TEL) 06-6227-5577  
Division Manager  
四半期報告書提出予定日 2024年5月15日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2024年6月期第3四半期の連結業績(2023年7月1日~2024年3月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年6月期第3四半期	2,839	△4.6	△304	—	△305	—	△293	—
2023年6月期第3四半期	2,975	2.6	1	△94.5	1	△96.4	41	109.2

(注) 包括利益 2024年6月期第3四半期 △325百万円(—%) 2023年6月期第3四半期 △14百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年6月期第3四半期	△28.25	—
2023年6月期第3四半期	4.15	4.14

(注) 2024年6月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年6月期第3四半期	4,166	2,222	41.9
2023年6月期	3,866	2,441	54.9

(参考) 自己資本 2024年6月期第3四半期 1,744百万円 2023年6月期 2,121百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年6月期	—	0.00	—	8.00	8.00
2024年6月期	—	0.00	—	—	—
2024年6月期(予想)	—	—	—	8.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2024年6月期の連結業績予想(2023年7月1日~2024年6月30日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,454	15.0	23	—	16	—	15	—	1.56

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年6月期3Q	10,679,800株	2023年6月期	10,679,800株
② 期末自己株式数	2024年6月期3Q	287,490株	2023年6月期	287,490株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年6月期3Q	10,392,310株	2023年6月期3Q	10,018,270株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	8
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(収益認識関係)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が和らぎ各種規制の緩和や、インバウンド需要の回復などにより経済活動の正常化が進み、景気全体は緩やかに回復しております。一方、ウクライナ紛争の長期化やパレスチナ自治区における紛争や混乱など、地政学的リスクの顕在化に加えエネルギー価格や食料品などの生活必需品の価格高騰、円安の進行、各国の金利政策などにより、依然として先行き不透明な状況が続きました。

当社においては、自治体を対象としたクラウドサービスを担うデジタルガバメントでは、行政デジタル化の流れを受けて順調に推移しております一方で、大きな市場拡大が見込まれる領域であるため競争も激しさを増しており、一部受注率の低下による影響も見え始めております。また企業の営業車両を対象としたモビリティ・サービスにおいては、企業活動の態様変化によって社用車自体が減少傾向にあることや、自動車メーカーにおける品質不正問題に起因する出荷停止による機会損失リスクは一定程度存在している状況であります。さらに、日本銀行によるマイナス金利政策の解除による銀行借入の金利上昇の影響についても今後顕在化すると思料しております。

このような経営環境の下、当社グループでは「スマート&テクノロジーで歴史に残る社会システムを創る！」をミッションとし事業を展開してまいりました。

当第3四半期連結累計期間においては、クラウドソリューション事業におけるMRR（月次経常収益）の獲得や行政デジタル化への更なる深耕など持続的成長モデルへの移行と中長期的な新たな収益モデルの創造を推進してまいりました。

また、スマートベニューセグメントにおいては2025年4月開業を予定するGLION ARENA KOBE（注1）の開業準備を順調に推進し投資が増加する中ですが、大口協賛を獲得するなど足元の売上獲得にも注力しております。

その結果、当第3四半期連結累計期間におきましては、売上高は2,839,646千円（前年同期比4.6%減）、営業損失は304,238千円（前年同期は1,279千円の利益）、経常損失は305,987千円（前年同期は1,810千円の利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失は293,559千円（前年同期は41,551千円の利益）となりました。

当社事業の性質的に第3四半期に収益獲得を見込むところを、今年度においてはクラウドソリューション事業の受注率低下およびスマートベニューセグメントにおける投資増や連結子会社である株式会社ストークスの業績が不安定に推移したことなどが影響し、前年同期対比において減収減益となっております。

しかしながら、一時的な受注率の低下からすでに回復傾向にあり、さらにスマートベニューセグメントの開業前協賛売上の獲得も活況となっていることから、第4四半期では一定の良化が見込まれるものとしています。今後も引き続き、クラウドソリューション事業においては継続的な規模の拡大が見込まれるSaaS市場での安定的なMRR増額や継続的な業務効率化によるコスト削減を推進するとともに、デジタルガバメント、モビリティ・サービスに続く「第3の柱」としてのスマートベニューにおいて、2025年開業予定のGLION ARENA KOBEを起点とするスマートシティへの取り組みなど、デジタルなまちづくりに資するサービス創造に注力することで、さらなる成長につながる収益モデルの創造を目指してまいります。

当第3四半期連結累計期間におけるセグメント別の経営成績は、次のとおりです。

#### <デジタルガバメントセグメント>

デジタルガバメントセグメントにおきましては、オープンガバメント（注2）における透明性、参加、連携の社会実装を推進するための自治体向けCLOUD SUITEとして“ガブクラ”（注3）を提供しております。

昨今、オンライン手続など行政デジタル化の流れが活性化し、ガバメントクラウド（注4）やデジタルマーケットプレイス（注5）などの構想へとクラウドシフトが一段と鮮明になっております。“ガブクラ”はそうした中での「新しい公」へと続く行政デジタル化の実現に向けて、自治体の情報発信を推進するCLOUD SUITEです。具体的にはWebサイトの作成運用を実装するCMS（注6）である“SMART L-Gov”、住民と自治体をオンラインで繋ぎ「参加・連携」を促す“GaaS”（注7）などによって構成されており、当該“ガブクラ”を通じて持続的なまちづくりを推進しております。

当第3四半期連結累計期間においてデジタルガバメントセグメントでは、新規案件の獲得及び既存顧客の深耕に注力し、継続的な原価低減活動などに取り組みました。自治体及び公的機関を納入先とする入札案件においては、政府の行政デジタル化に関する取り組みが進められる中、一部競争環境激化による受注率の低下が見られ、販売は前年同

期を下回る結果となりました。また、人件費及び出張費用の増加、グラングリーン大阪での新しいウェルビーイング事業への先行投資も嵩んだ結果、減収減益となりました。他方行政デジタル化の大きな流れの中では、アライアンス先であるウイングアーク1st株式会社と共同で、行政DXを加速させる自治体向けの公共施設予約システム“ラクリザ”を開発し、2024年4月よりサービスを開始いたしました。

以上の結果、セグメント売上高は1,350,105千円（前年同期比14.3%減）、セグメント利益は241,473千円（前年同期比40.7%減）となりました。

#### <モビリティ・サービスセグメント>

モビリティ・サービスセグメントは、祖業である自動車電装に端を発し、100年に一度という自動車産業の大変革期において、自動車に装着する安全支援機器や情報デバイスの販売であるカーソリューションから、コネクティッドカー（注8）サービスである“CiEMSシリーズ”（注9）やクルマのデータ利活用を推進するプラットフォーム、ソフトウェア、さらにカーシェアリングなどクルマのサービス化を支援するプラットフォーム“Kuruma Base”（注10）の提供へと、多様なモビリティIoTを事業とするモビリティ・サービスを推進してまいりました。

当第3四半期連結結果計期間においては、原価低減や業務効率化などを実行したものの、社用車の減少や新車の納車遅れなどの要因により減収減益となりました。新たにリリースいたしました“Kuruma Base”における鍵管理の新サービスの引き合いや、建設機械レンタル大手アクティオ社との無人建機レンタルの仕組みは順調ではございますが、引き続き、ソリューション強化に取り組み収益の獲得や更なる業務効率化などを実行してまいります。

以上の結果、セグメント売上高は1,107,126千円（前年同期比5.7%減）、セグメント利益は131,520千円（前年同期比42.3%減）となりました。

#### <スマートベニューセグメント>

スマートベニューセグメントでは、2025年4月開業のGLION ARENA KOBEを軸として、政府が成長産業として位置付けるスタジアム・アリーナ改革やスマートベニューという概念に則り、新たな市場の創造を目指しております。さらに収益的にもデジタルガバメント、モビリティ・サービスに続く3本目の柱として当社グループの成長を支える存在になるよう準備を進めております。

当第3四半期連結結果計期間においては、中長期的な収益の獲得を見据え、2025年の開業に向けた環境整備を順調に推進しましたが、株式会社ジーライオンによるアリーナの命名権といった大口協賛や複数社からの協賛などを獲得し大幅増収であるものの、投資が先行していることや、連結子会社である株式会社ストークスの業績不振によって増収減益となりました。

以上の結果、セグメント売上高は382,414千円（前年同期比69.7%増）、セグメント損失は310,424千円（前年同期は255,174千円の損失）となりました。

#### [用語解説]

- 注1. GLION ARENA KOBE : NTT都市開発株式会社、株式会社NTTドコモ及び当社の3社企業コンソーシアムによる民設民営のアリーナプロジェクトである「神戸アリーナプロジェクト」のもと、兵庫県神戸市中央区の新港突堤西地区（第2突堤）に建設中の多目的アリーナ。2024年2月に名称を「GLION ARENA KOBE（ジーライオンアリーナ神戸）」と決定した。
- 注2. オープンガバメント : 透明でオープンな政府及び地方自治体を実現するための政策とその背景となる概念のことで、（1）透明性、（2）市民参加、（3）官民の連携の3つを基本原則としている。
- 注3. ガブクラ : 当社が提供する、自治体・公的機関向け地域情報CLOUD SUITEのこと。
- 注4. ガバメントクラウド : 政府の情報システムについて、共通的な基盤・機能を提供する複数のクラウドサービスの利用環境のこと。
- 注5. デジタルマーケットプレイス : 複数のベンダーやサービスを一律の要件で登録し、登録されているサービス・企業について、行政機関が、入札など不要で簡易的に調達できる仕組みのこと。
- 注6. CMS : Contents Management Systemの略で、Webサイトのコンテンツを構成するテキストや画像、デザイン・レイアウト情報（テンプレート）などを一元的に保存・管理するシステムののこと。
- 注7. GaaS : Government as a Serviceの略で、当社が提供する行政サービスをデジタル化するオンライン手続きのサービス。
- 注8. コネクティッドカー : インターネットに接続され、情報を送ることも受け取ることもできる自動車のこと。
- 注9. CiEMSシリーズ : 当社が提供する、モビリティから取得した多様なデータを分析・活用することで、交通事故の削減、渋滞の緩和、車両活用の効率化など、様々な社会課題の解決をするためのサービス。
- 注10. Kuruma Base : 当社が提供する、クルマのコネクティッド化からサービス化までをインテグレートするプラットフォーム。

## (2) 財政状態に関する説明

### ①資産

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、4,166,187千円となり、前連結会計年度末と比べ300,072千円の増加となりました。

流動資産は2,737,264千円となり、前連結会計年度末と比べ279,139千円の減少となりました。その主たる要因は、受取手形、売掛金及び契約資産が371,243千円増加したものの、現金及び預金が691,092千円減少したことによるものであります。

固定資産は1,424,483千円となり、前連結会計年度末と比べ580,368千円の増加となりました。その主たる要因は、建設仮勘定が424,713千円、敷金及び保証金が33,004千円増加、その他有形固定資産が81,730千円増加したことによるものであります。

繰延資産は4,438千円となり、前連結会計年度末と比べ1,156千円の減少となりました。その主たる要因は、株式交付費が1,067千円減少したことによるものであります。

### ②負債

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、1,944,131千円となり、前連結会計年度末と比べ519,190千円の増加となりました。

流動負債は1,586,152千円となり、前連結会計年度末と比べ469,703千円の増加となりました。その主たる要因は、買掛金が18,683千円、短期借入金が207,040千円、その他流動負債が248,718千円増加したことによるものであります。

固定負債は357,979千円となり、前連結会計年度末と比べ49,486千円の増加となりました。その主たる要因は、その他固定負債が77,827千円増加したものの、長期借入金が29,390千円減少したことによるものであります。

### ③純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産は2,222,055千円となり、前連結会計年度末と比べ219,118千円の減少となりました。その主たる要因は、連結子会社である株式会社One Bright KOBEへの非支配株主への第三者割当増資により非支配株主持分が189,950千円増加したものの、配当金の支払いにより83,138千円及び親会社株主に帰属する四半期純損失293,559千円の計上により利益剰余金が376,698千円減少したこと及び非支配株主に帰属する四半期純損失の計上により非支配株主持分が32,369千円減少したことによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年6月期の連結業績予想については、2023年8月14日付「2023年6月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」にて発表いたしました通期の予想数値に変更はございません。

今後、経営環境等の変化により業績予想の見直しが必要と判断した場合には、速やかに開示してまいります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,339,306	1,648,213
受取手形、売掛金及び契約資産	472,324	843,567
電子記録債権	1,683	—
商品	110,333	89,803
仕掛品	9,491	534
その他	83,285	155,178
貸倒引当金	△20	△33
流動資産合計	3,016,404	2,737,264
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	184,387	168,721
建設仮勘定	9,300	434,013
その他（純額）	64,191	145,921
有形固定資産合計	257,879	748,656
無形固定資産		
のれん	125,880	113,698
ソフトウェア	128,447	113,770
その他	16,112	54,091
無形固定資産合計	270,439	281,560
投資その他の資産		
繰延税金資産	100,962	87,688
敷金及び保証金	205,526	238,531
その他	9,308	68,046
投資その他の資産合計	315,797	394,266
固定資産合計	844,115	1,424,483
繰延資産		
創立費	325	237
株式交付費	5,269	4,201
繰延資産合計	5,595	4,438
資産合計	3,866,115	4,166,187
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	92,212	110,896
短期借入金	488,560	695,600
1年内返済予定の長期借入金	79,440	86,060
未払法人税等	15,440	5,620
賞与引当金	44,046	42,507
その他	396,750	645,469
流動負債合計	1,116,449	1,586,152
固定負債		
長期借入金	247,120	217,730
資産除去債務	55,564	56,614
その他	5,807	83,634
固定負債合計	308,492	357,979
負債合計	1,424,941	1,944,131

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,044,944	1,044,944
資本剰余金	1,114,988	1,114,988
利益剰余金	116,161	△260,536
自己株式	△154,411	△154,411
株主資本合計	2,121,682	1,744,984
非支配株主持分	319,491	477,071
純資産合計	2,441,173	2,222,055
負債純資産合計	3,866,115	4,166,187



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2023年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2024年3月31日)
売上高	2,975,715	2,839,646
売上原価	1,972,205	2,054,852
売上総利益	1,003,510	784,793
販売費及び一般管理費	1,002,230	1,089,031
営業利益又は営業損失(△)	1,279	△304,238
営業外収益		
受取利息	16	14
助成金収入	3,458	1,074
違約金収入	3,057	4,799
講演料等収入	490	680
その他	468	582
営業外収益合計	7,490	7,150
営業外費用		
支払利息	5,795	6,275
創立費償却	88	88
株式交付費償却	923	1,987
その他	151	547
営業外費用合計	6,959	8,899
経常利益又は経常損失(△)	1,810	△305,987
特別利益		
新株予約権戻入益	36	—
特別利益合計	36	—
特別損失		
固定資産除却損	226	11
特別損失合計	226	11
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	1,619	△305,998
法人税、住民税及び事業税	17,654	6,658
法人税等調整額	△1,581	13,273
法人税等合計	16,073	19,931
四半期純損失(△)	△14,453	△325,929
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△56,005	△32,369
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	41,551	△293,559

## 四半期連結包括利益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2023年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2024年3月31日)
四半期純損失(△)	△14,453	△325,929
四半期包括利益	△14,453	△325,929
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	41,551	△293,559
非支配株主に係る四半期包括利益	△56,005	△32,369

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2022年7月1日 至 2023年3月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	デジタル ガバメント	モビリティ・ サービス	スマート ベンチャー	合計		
売上高						
一時点で移転される財又はサービス	20,911	541,154	62,731	624,797	—	624,797
一定の期間にわたり移転される財又はサービス	1,554,836	633,403	162,678	2,350,918	—	2,350,918
顧客との契約から生じる収益	1,575,748	1,174,558	225,409	2,975,715	—	2,975,715
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	1,575,748	1,174,558	225,409	2,975,715	—	2,975,715
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,575,748	1,174,558	225,409	2,975,715	—	2,975,715
セグメント利益又は損失(△)	407,274	227,976	△255,174	380,077	△378,797	1,279

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△378,797千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

該当事項はありません。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年7月1日 至 2024年3月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	デジタル ガバメント	モビリティ・ サービス	スマート ベニュー	合計		
売上高						
一時点で移転される財又はサービス	5,217	488,697	116,762	610,677	—	610,677
一定の期間にわたり移転される財又はサービス	1,344,887	618,429	265,652	2,228,969	—	2,228,969
顧客との契約から生じる収益	1,350,105	1,107,126	382,414	2,839,646	—	2,839,646
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	1,350,105	1,107,126	382,414	2,839,646	—	2,839,646
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,350,105	1,107,126	382,414	2,839,646	—	2,839,646
セグメント利益又は損失(△)	241,473	131,520	△310,424	62,568	△366,807	△304,238

(注) 1.セグメント利益又は損失(△)の調整額△366,807千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2.セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

該当事項はありません。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## (収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。